

愛称「ジーボ」について

地頭方原子力防災センターが、周辺住民に親しみを持ってもらえる施設となるよう、2月～3月にかけて地頭方地区の皆さんおよび御前崎中学校の在校生を対象に、愛称を募集しました。審査の結果、応募総数23作品（地頭方地区18作品、御前崎中学校5作品）の中から、海野龍子さん（豊岡区）の作品「ジーボ」が採用されました。

「ジーボ」に込められた思い

地頭方原子力防災センターの「地」と「防」の文字を使い、地域の皆さんに分かりやすく、覚えてもらいやすい施設となるよう期待が込められています。



「ジーボ」を考案した海野さん(右)



施工業者（鈴木・小塚特定建設工事共同企業体）から銘板を寄贈していただきました

次々と完成！放射線防護施設

市では、原子力災害時に長距離避難が困難な要配慮者とその介助者が一時的に避難する「放射線防護施設」を整備しています。完成した施設の概要などについてお知らせします。

問い合わせ 防災課 羽田 ☎0058



原子力防災センターの設備・部屋など

- ▶陽圧化装置＝プレフィルターで砂塵などを除去し、メインフィルター（HEPA・活性炭）で放射性物質などを除去します。放射性物質除去後の清浄な空気を施設内に給気します。
- ▶非常用発電設備＝商用電源が喪失した場合でも、陽圧化装置などを稼働するための発電設備です。
- ▶差圧計＝屋内の空気圧を測定して、陽圧化装置の稼働状況を把握します。
- ▶鉄筋コンクリート構造＝建物の中にあることで、屋外からの放射線による外部被ばくはある程度防護できますが、鉄筋コンクリート構造の建物であれば、より効果的に放射線を防護できます。
- ▶鉛入りカーテン＝窓部への設置で、放射線の遮へい能力を高めています。
- ▶気密性の確保＝玄関出入口の二重扉化や、壁および窓枠などの補強により、気密性を高めています。



避難室（和室）



避難室（会議室）



給湯室

所在地	牧之原市新庄297番地1
工期	令和元年7月～令和2年3月
事業費	6億6278万4千円 *建物建設は国の補助金を活用しています。 (建築工事＝6億3250万円、設計＝1598万4千円、施工監理＝1430万円)
構造・規模など	鉄筋コンクリート（RC）造2階建 建築面積＝776平方メートル、延床面積＝1476平方メートル *約260人収容可能
部屋・設備など	避難室8部屋（うち和室2部屋）、管理室、備蓄倉庫（資機材・物資）、機械室（陽圧化装置）、非常用発電設備、地下タンク（軽油）、給湯室、トイレ など

地頭方原子力防災センター「ジーボ」が完成

市では、PAZ圏内（原子力施設からおおむね半径5キロメートル圏内）の要配慮者（長距離避難による健康リスクのある人や介助者など）が、原子力災害時に、被ばくのリスクを下げながら安全に一時的な屋内退避を行うための「放射線防護施設」を整備しています。

3月に、県内初となる新設の要配慮者用放射線防護施設「牧之原市地頭方原子力防災センター」（愛称「ジーボ」）が完成しました。

この施設は、建物の気密性を確保するとともに、放射性物質を除去できる換気設備を取り付けています。また、施設内に、避難時に必要な水や食料のほか、生活用品などを備蓄しています。

平常時には、打ち合わせや会合などで利用可能な施設ですので、地域の皆さんはぜひ活用してください。

市内の整備状況

市内の放射線防護施設は、これまでに7施設が完成しています。

市全体では、要配慮者などの避難施設が約1200人分必要です。今回完成した「ジーボ」は約260人収容可能な施設ですが、相良地区においては、約500人の要配慮者などが避難する施設が不足しているため、相良総合センター「いぐら」南側に、総合的な防災拠点の整備を計画しています。

今後も引き続き、整備を進めていきます。

完成済みの放射線防護施設

- 現地災害対策拠点施設
- 静岡市牧之原消防署（平成27年度完成）
- 「社会福祉施設」
- 介護老人保健施設はるかぜ（平成28年度完成）
- 養護老人ホーム相寿園（平成29年度完成）
- 「エアシエルト」(*)
- 菅山小学校体育館（平成30年度完成） 収容可能人数 約140人
- 御前崎中学校体育館（平成30年度完成） 収容可能人数 約180人
- 相良B&G海洋センター（令和元年度完成） 収容可能人数 約140人

(*)施設内に設置したエアシエルト（テント）を展開するもの。